

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202429		
法人名	有限会社 ドルフィン		
事業所名	グループホーム ドルフィン	ユニット名	1ユニット
所在地	静岡県葵区桜町1丁目9-34		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2017/022_kani=true&UjgvosyoCd=2274202429-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者だけでなく、ご家族との関係に力を入れています。定期面談だけでなく、電話にてでも密に連絡を取り情報の共有を図り、ご家族の不安など解消できるよう努めています。管理者が看護師を兼務、また24時間対応の往診医師と医療連携が図れております。予防的ケアに重点を置き、重度化を未然に防ぐ支援をしています。看取り介護の実績もあり、ご家族と共に最期をお迎え出来るよう、ご家族のメンタルケアも含めた看取りケアの実施をしています。近隣町内との交流を行い、町内の行事にはスタッフだけでなく、出来る限り入居者も参加できるように支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建屋内にはデイサービス事業所と12年を過ぎた当該グループホームが併設され、グループホームは両事業所を統括している。介護保険制度発足当初から介護の分野に携わっているセンター長と看護師としても経験豊かな管理者との連携のもと、勤務歴が長い多くの職員により運営されており、急な変化を好まない利用者も安心して安定した日々を過している。近隣住民との関係も良好で、町内会の事業所に対する理解も深く、諸行事に参加するなどして日常的に地域と交流している。利用者の医療に関しては在宅医との24時間連携のもと良い関係が築かれており、家族が希望すれば介護も行う方針である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、年に一度職員研修を実施している。各々が介護職員としてのプロ意識を自覚できるようし、共有をはかれるようにしている。	「利用者一人ひとりの立場にたつての介護の実践」を理念として掲げている。職員一同が利用者と家族に信頼され、プロとしての技術を携えて関わられる事を願い、研修にも力を注ぎ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町内会に加入しており回覧板を回す等職員も隣近所の方の顔がわかる関係である。町内の行事にはスタッフだけでなく出来る限り入居者も参加出来るよう交流をはかっている。	利用者は地域住民の一員としての意識があり、散歩中や買物中でも住民と声を掛け合う仲である。近隣の菜園からは野菜の差し入れもある。町内の祭りでの交流や事業所のクリスマス会に住民親子の参加があり、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関する相談だけでなく、認知症など介護に関する悩み等相談して頂けるよう対応している。実際に町内の方が家族の相談にくる方が増えている傾向です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し堅苦しくない雰囲気で行えるよう雑談形式で実施している。町内の役員の方は顔なじみとなっている方も多い。	町内会の福祉担当役員や地域包括支援センター、家族代表等が出席し、隔月で定期的に開催している。現況報告や事業所に関係した福祉、高齢者の健康問題などを論議している。発言者も多く、毎回有意義な会議になっている。	有意義な内容で討議された運営推進会議の議事録や討議内容が、欠席した家族や委員に報告されているかどうかを記録として明確に残す事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各課とは連絡を取り、疑問点など早期に解決できるよう関わっている。生活保護受給者の入居者が多いことから、特に生活支援課とのかかわりは深い。	事務関連の事項は、事務所で行われている。介護現場の事項については、市や区の介護保険課各担当との連絡を密にし連絡を取り合っている。生活保護受給利用者が多いことから、生活支援課が関係しての問題も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念に基づき身体拘束についてとりいれ、定期ミーティングや朝礼時に周知している。職員同士でも、自発的に声を掛け合い注意を促している。	認知症状がある利用者の生活支援の場である事を職員が理解し、理念に基づき接する事で身体拘束をしないケアの多くが実践されている。止む負えない場合でも指定基準に準じた原則に沿った介護を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の理念に虐待防止についても取りいれ、定期ミーティングや朝礼でも周知している。職員同士でも自発的に声を掛け合い注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護や成年後見人を活用している入居者もいる。入居の際にはこれらの制度が必要であるかなど、ご本人も含め関係者と相談し支援に繋げていけるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく契約前より、入居予定者ご本人及びご家族に十分時間をかけて説明し、納得してから入居して頂けるように支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談時は、運営に関する意見や要望等をうかがい、なるべく反映できるよう努めている。家族の面会が多い日曜祝日は、管理者がなるべく出勤し、会える機会が多くなるようしている。	利用者や家族に信頼される事業所である事を願い、理念を実践する過程として家族の意見を大切にしている。家族来訪時には利用者の様子を丁寧に伝え、家族からも意見や要望を伝え易くするための気遣いが見られた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや朝礼だけでなく、日々の業務中でも、各職員が意見を言いやすい職場環境作りを心掛けている。意見がすぐに現場に反映されるような職場環境となっている。	建屋内事業所を統括するセンター長と管理者との連携や職員間との意思疎通は良好で、介護現場の流れの中で意見や提案を出し合える環境が整っている。その内容等は申し送りノートで伝え、共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面の整備に努めている。職員の体調管理も含め、個々の勤務状況の把握に努めている。個々が仕事にやりがいを持てるよう交代でリーダー業務を担ってもらい自信に繋げてもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修だけでなく、個々の職員がお互いに日々の介護現場で技術と知識の確認を行い共有している状況である。個々が自発的に教えあっている現場である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者ではなく、職員が外部の研修予定を見つけてアナウンスしたり、参加したりと自発的な取り組みを行っており、サービスの質の向上へ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者がどの職員にも言いやすい環境作りに努め、個々の職員が入居者とゆっくり話す時間を作っている。管理者は必ず全入居者に声をかけ話す時間を作り、要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前より、ご家族とは連絡を取り不安などを早期に解決出来るよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の面談に見えた際には、現状を確認したうえで、入居以外に適切と思われる介護サービスについても提案させてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護者という立場だけでなく、入居者と共同生活している家族という目線でも接しており、信頼し合えるような関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期面会以外でも、ご家族と入居者が電話でも話せるなど、ご家族間のきずなも支援できるように配慮している。管理者に限らずどの職員も、ご家族と雑談出来るような親しい関係もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の体調不良以外での、面会時間や面会者の制限は特に設けておらず関わりが持てるようしている。また電話や手紙も多く活用し支援に努めている。	馴染みの場所や人との関係継続のための外出支援をしてきたが、多くの利用者が超高齢化に伴い外出を好まなくなっている。利用者に寄り添い思いを共有して、知人への面会支援の連絡や場の設定に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の個々の性格を把握し、また利用者同士の相性なども考慮し、職員も含めた利用者同士の関わり方の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族とは連絡を取り現状を聞いたり、必要に応じて相談等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、勤務日は入居者全員の利用者に話しかけ、困っていることを含め、希望や以降の確認に努めている。管理者が現場の介護業務にも携わっているため普段から話しやすい関係性であると思われる。	慣れ親しんでいる管理者や職員が寄り添い日常生活を支援しており、利用者の思いや願いを気軽に聞く事ができている。個々の思いなどを介護記録に書き留め、朝礼時やカンファレンスで話し合い、連絡ノートで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ご本人とご家族に、わかる範囲で生活歴等の確認を行っている。職員とは朝礼等だけでなく日常業務の中で都度情報の共有をはかっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の職員それぞれが日々の介護支援の中で得た入居者の現状について、伝達及び情報交換をその都度行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な紙面上の介護計画だけでなく、各職員が日々状況をアセスメントし課題抽出及び支援策について毎日情報共有している。	半年毎に基本計画の見直しを行うが、日常生活で発する思いや意向・気付きは介護記録に留められ、カンファレンスでモニタリングされている。その都度、計画修正を行い現状に即した計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は出来るだけ細かく記載するよう努め情報共有している。特に認知症状が重く関わりの困難を要する事例については、支援方法を素早く共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの枠にとらわれず入居者及びご家族のニーズを確認するようしている。その中で可能かどうか検討し、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々の出来ることを把握したうえで、地域内で参加できる活動に目を向けている。入居者の高齢化等により外出は困難であること多く、訪問対応の地域資源の活用を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族の希望があれば、提携往診医師を主治医にかかりつけ医の変更を促す。医師と施設が24時間連絡とれる体制だけでなく、往診医師も市内の総合病院と連携がはかれており、受診支援に努めている。	利用者の主治医でもある協力医は総合病院とのネットワークを持つ在宅専門医で、事業所での定期的な往診診療も行っている。歯科医の往診もあり、協力医とは24時間の連絡体制ができていて医療に関する環境は良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師を兼務しているため、24時間体制で看護職との協働が十分はかれた支援に努められている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐ病院医療連携室と情報の共有をはかり、入院経過や退院後の支援についても早めに対応できるよう努めている。近隣の各総合病院の相談員とは関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化した場合の指針について掲載し、入居前又は入居時に説明し得ている。重度化など予測されるリスクについて家族と話し合い、事業所での終末期ケアについて理解を得られるよう支援に取り組んでいる。	事業所は看取り支援を行っており、重度化や終末期に向けた事業所の方針を利用者と家族は理解している。看取りの研修も行っており、管理者不在時でも対応できる体制が整っている。訪問看護師との連携も良く、ここ1年で2名の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が看護師であることもあり、急変時の対応等は応急処置から医師への連絡も含め、介護職員に指導されており、看護師不在時でも実践に繋がっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し職員全体で把握している。近隣在住の職員も多く災害時は休みでも応援駆けつけられるよう体制を築いている。また町内会への加入により地域住民からの応援も協力依頼している。	防災マニュアルに基づき、各項目の確認を行っている。利用者と職員ともに隣組の一員としての関係が築かれている。事業所も地域の防災訓練には積極的に参加しており、事業所への理解が深まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の人格を尊重し性格を把握し、職員の言動対応には十分配慮している。職員同士が、対応に対しての気づきをすぐに共有するようにしている。	個々に異なる誇りやプライバシーがあるので、利用者を良く理解し本人に応じた言葉遣いをするなど配慮している。本人に不適さない言動があれば、職員同士が互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いを伝えやすいよう人的環境を整え、職員ではなく入居者が選択決定できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の日常生活のペースや性格の把握に努め、入居者に今日はどうしたいかなど意志確認をして、希望に沿った暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容だけでなく化粧も希望があれば出来るよう支援し、理美容は2か所に訪問依頼し好きな美容師を選択してもらっている。買い物行けない方にはカタログ利用し選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の嗜好を確認しており、メニューに活かせるようしている。出来るだけ職員と入居者が一緒に準備と片付け出来るよう支援している。	利用者の超高齢化で食事時の係わり方も変化しているが、自分なりに持場を理解しテーブル拭きなどに参加している。馴染みの菜園から新鮮野菜が届き、好みを熟知した職員の調理で楽しい食卓になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の水分と食事摂取状況などを把握している。看護師、医師と連携しながら健康状態とあわせ支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し実施している。ご自身で出来る方も磨き残しが無いよう確認している。近隣の歯科医に訪問定期検診してもらいながら、個々の口腔ケアについても職員が指導を受け支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンや排泄物の状態を把握して、出来る限りトイレで排泄できるよう自立に向けて支援に努めている。	時系列に整理された排泄記録により、利用者の排泄に関する諸情報を理解している。適時に声掛けや誘導を行い、本人の現状に応じた自立への支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個々の排便パターンを把握しており、なるべく薬に頼らずに生活習慣の改善で排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、午前中の中の入浴である。入居したばかりなど慣れない間など希望があれば希望の時間に入浴できるよう配慮している。	週2回を目安に午前の中の入浴を願っているが、本人の希望に沿った時間帯での入浴も可能である。建屋内には法人が開設時に導入した総檜造りの浴槽がある浴室があり、利用者は外の景色を見ながら入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の睡眠パターンの把握に努めている。高齢の方が多いため、ご本人と相談し日中も休息が取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細は職員がすぐに閲覧確認できるような状況、また提携薬局の担当の薬剤師が説明や相談にのってくれる状況である。入居者個々にあわせて服薬の支援が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に今日は何をしようかと声をかけ、職員ではなく入居者主体で決定できるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢又は車いすの入居者が多く遠出の外出は困難な状況ではあるが、それ以外の方は希望に添えるよう、また家族にも協力を依頼するなど支援に努めている。	外出困難な利用者にも、穏やかな日には外に出て季節の空気を感じてもらおうようにしている。裏手にある河川の土手を日常の散歩コースとしている。家族の協力により、ドライブや外出に向く利用者への支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のために現金の所持はしていないが、預り金又は立て替えとしている。買い物の際は、職員付き添いのもとで入居者所持として買い物支援できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員付き添いのもとで、電話や手紙を書いたり出来るよう支援している。家族だけでなく、馴染みの友人などとも交流が図れるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と職員と一緒に居室など整理整頓し、使いやすいよう配置なども考えている。壁に飾る作品なども一緒に考え作り、季節を感じられるようしている。	玄関から居室やリビングまで、清掃が行き届き、塵一つない床面は清潔感がある。こじんまりとしたリビングではあるが、利用者が職員と作成した展示物や作品の雰囲気も良く、一日を過ごすに相応しい静かで落ち着ける共同空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を強制することはなくここに過ごしたい場所で自己決定してもらえよう、また安全に過ごせるよう必要に応じて付き添うなど配慮し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前又は入居時に説明をし、家庭で使用していたなじみの家具や小物などを居室に置きくつろげ、また安全に生活できるよう支援に努めている。	居室は、住み慣れた家庭生活を意識した自分の居場所になっている。落ち着いて過ごせるように、思いがこもった衣類や品々の持込みをお願いしている。担当職員と一緒に、安全を第一に整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者と相談し、居室内の配置を一緒に決定するよう努め、出来る限り自立した生活が送れるよう安全にも配慮し支援に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202429		
法人名	有限会社 ドルフィン		
事業所名	グループホーム ドルフィン	ユニット名	2ユニット
所在地	静岡県葵区桜町1丁目9-34		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2017/022/kani=true&JigvosyoCd=2274202429-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者だけでなく、ご家族との関係に力を入れています。定期面談だけでなく、電話にて密に連絡を取り情報の共有を図り、ご家族の不安など解消できるよう努めています。管理者が看護師を兼務、また24時間対応の往診医師と医療連携が図れております。予防的ケアに重点を置き、重度化を未然に防ぐ支援をしています。看取り介護の実績もあり、ご家族と共に最期をお迎え出来るよう、ご家族のメンタルケアも含めた看取りケアの実施をしています。近隣町内との交流を行い、町内の行事にはスタッフだけでなく、出来る限り入居者も参加できるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価は1ユニット目の外部評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、年に一度職員研修を実施している。各々が介護職員としてのプロ意識を自覚できるようし、共有をはかれるようにしている。	※複数ユニットの外部評価は1ユニット目の外部評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町内会に加入しており回覧板を回す等職員も隣近所の方の顔がわかる関係である。町内の行事にはスタッフだけでなく出来る限り入居者も参加出来るよう交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関する相談だけでなく、認知症など介護に関する悩み等相談して頂けるよう対応している。実際に町内の方が家族の相談にくる方が増えている傾向です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し堅苦しくない雰囲気で行えるよう雑談形式で実施している。町内の役員の方は顔なじみとなっている方も多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各課とは連絡を取り、疑問点など早期に解決できるよう関わっている。生活保護受給者の入居者が多いことから、特に生活支援課とのかかわりは深い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念に基づき身体拘束についてとりいれ、定期ミーティングや朝礼時に周知している。職員同士でも、自発的に声を掛け合い注意を促している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の理念に虐待防止についても取りいれ、定期ミーティングや朝礼でも周知している。職員同士でも自発的に声を掛け合い注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護や成年後見人を活用している入居者もいる。入居の際にはこれらの制度が必要であるかなど、ご本人も含め関係者と相談し支援に繋げていけるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく契約前より、入居予定者ご本人及びご家族に十分時間をかけて説明し、納得してから入居して頂けるように支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談時は、運営に関する意見や要望等をうかがい、なるべく反映できるよう努めている。家族の面会が多い日曜祝日は、管理者がなるべく出勤し、会える機会が多くなるようしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや朝礼だけでなく、日々の業務中でも、各職員が意見を言いやすい職場環境作りを心掛けている。意見がすぐに現場に反映されるような職場環境となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面の整備に努めている。職員の体調管理も含め、個々の勤務状況の把握に努めている。個々が仕事にやりがいを持てるよう交代でリーダー業務を担ってもらい自信に繋げてもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修だけでなく、個々の職員がお互いに日々の介護現場で技術と知識の確認を行い共有している状況である。個々が自発的に教えあっている現場である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者ではなく、職員が外部の研修予定を見つけてアナウンスしたり、参加したりと自発的な取り組みを行っており、サービスの質の向上へ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者がどの職員にも言いやすい環境作り に努め、個々の職員が入居者とゆっくり話す 時間を作っている。管理者は必ず全入居者 に声をかけ話す時間を作り、要望に耳を傾 けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約前より、ご家族とは連絡を取り不安など 早期に解決出来るよう、関係作りに努めて いる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の面談に見えた際には、現状を確 認したうえで、入居以外に適切と思われる介 護サービスについても提案させてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護者という立場だけでなく、入居 者と共同生活している家族という目線でも接 しており、信頼し合えるような関係構築に努 めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	定期面会以外でも、ご家族と入居者が電話 でも話せるなど、ご家族間のきずなも支援で きるよう配慮している。管理者に限らずどの 職員も、ご家族と雑談出来るような親しい関 係もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の体調不良以外での、面会時間や 面会者の制限は特に設けておらず関わりが 持てるようしている。また電話や手紙も多く 活用し支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員は利用者の個々の性格を把握し、また 利用者同士の相性なども考慮し、職員も含 めた利用者同士の関わり方の支援に努めてい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族とは連絡を取り現状を聞いたり、必要に応じて相談等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、勤務日は入居者全員の利用者に話しかけ、困っていることを含め、希望や以降の確認に努めている。管理者が現場の介護業務にも携わっているので普段から話しやすい関係性であると思われる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ご本人とご家族に、わかる範囲で生活歴等の確認を行っている。職員とは朝礼等だけでなく日常業務の中で都度情報の共有をはかっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の職員それぞれが日々の介護支援の中で得た入居者の現状について、伝達及び情報交換をその都度行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な紙面上の介護計画だけでなく、各職員が日々状況をアセスメントし課題抽出及び支援策について毎日情報共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は出来るだけ細かく記載するよう努め情報共有している。特に認知症状が重く関わりの困難を要する事例については、支援方法を素早く共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの枠にとらわれず入居者及びご家族のニーズを確認するようしている。その中で可能かどうか検討し、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々の出来ることを把握したうえで、地域内で参加できる活動に目を向けている。入居者の高齢化等により外出は困難であること多く、訪問対応の地域資源の活用を目を向けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族の希望があれば、提携往診医師を主治医にかかりつけ医の変更をしてもらう。医師と施設が24時間連絡とれる体制だけでなく、往診医師も市内の総合病院と連携がはかれており、受診支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師を兼務しているため、24時間体制で看護職との協働が十分はかれた支援に努められている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐ病院医療連携室と情報の共有をはかり、入院経過や退院後の支援についても早めに対応できるよう努めている。近隣の各総合病院の相談員とは関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化した場合の指針について掲載し、入居前又は入居時に説明し得ている。重度化など予測されるリスクについて家族と話し合い、事業所での終末期ケアについて理解を得られるよう支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が看護師であることもあり、急変時の対応等は応急処置から医師への連絡も含め、介護職員に指導されており、看護師不在時でも実践に繋がられている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し職員全体で把握している。近隣在住の職員も多く災害時は休みでも応援駆けつけられるよう体制を築いている。また町内会への加入により地域住民からの応援も協力依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の人格を尊重し性格を把握し、職員の言動対応には十分配慮している。職員同士が、対応に対しての気づきをすぐに共有するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いを伝えやすいよう人的環境を整え、職員ではなく入居者が選択決定できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の日常生活のペースや性格の把握に努め、入居者に今日はどうしたいかなど意志確認をして、希望に沿った暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容だけでなく化粧も希望があれば出来るよう支援し、理美容は2か所に訪問依頼し好きな美容師を選択してもらっている。買い物行けない方にはカタログ利用し選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の嗜好を確認しており、メニューに活かせるようしている。出来るだけ職員と入居者が一緒に準備と片付け出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の水分と食事摂取状況などを把握している。看護師、医師と連携しながら健康状態とあわせ支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し実施している。ご自身で出来る方も磨き残しが無いよう確認している。近隣の歯科医に訪問定期検診してもらいながら、個々の口腔ケアについても職員が指導を受け支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンや排泄物の状態を把握して、出来る限りトイレで排泄できるよう自立に向けて支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者個々の排便パターンを把握しており、なるべく薬に頼らずに生活習慣の改善で排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、午前中の中の入浴である。入居したばかりなど慣れない間など希望があれば希望の時間に入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の睡眠パターンの把握に努めている。高齢の方が多いため、ご本人と相談し日中も休息が取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細は職員がすぐに関覧確認できるような状況、また提携薬局の担当の薬剤師が説明や相談にのってくれる状況である。入居者個々にあわせて服薬の支援が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に今日は何をしようかと声をかけ、職員ではなく入居者主体で決定できるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢又は車いすの入居者が多く遠出の外出は困難な状況ではあるが、それ以外の方は希望に添えるよう、また家族にも協力を依頼するなど支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のために現金の所持はしていないが、預り金又は立て替えとしている。買い物の際は、職員付き添いのもとで入居者所持として買い物支援できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員付き添いのもとで、電話や手紙を書いたり出来るよう支援している。家族だけでなく、馴染みの友人などとも交流が図れるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と職員と一緒に居室など整理整頓し、使いやすいよう配置なども考えている。壁に飾る作品なども一緒に考え作り、季節を感じられるようしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を強制することはなくここに過ごしたい場所で自己決定してもらえるよう、また安全に過ごせるよう必要に応じて付き添うなど配慮し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前又は入居時に説明をし、家庭で使用していたなじみの家具や小物などを居室に置きくつろげ、また安全に生活できるよう支援に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者と相談し、居室内の配置を一緒に決定するよう努め、出来る限り自立した生活が送れるよう安全にも配慮し支援に努めている。		